



とうとう9月をむかえてしまいました。  
9月といえば、秋の入口です。本当に月日の流れは早いです。  
子どもたちは、目の前に迫り来る運動会へ向けてまっすぐの状態です。  
そんな雰囲気大切にしながら、運動会をむかえたいと思います。  
大きな成果を期待しましょう！

■今から40年と前の事でしたが、保護者のパパから「白ゆりの運動会は、プログラムのなごりが良いから、観ていて楽しいネ!」と言われました。

そのパパは平岸西小の教師で、娘とその息子も同級生です。

開園当初から、園外での活動が多く、子どもたちの安全を考えると、どんな状況に於いてもスタッフの指示に、素早く、的確に反応するよう指導して来ております。

その指導の成果が、運動会という行事の進行の中に出ていたんですね。

考えてみれば、コロナ対策における運動会です。プログラムを見ていただければ、おわかり頂けますが、午前中の開催という制約の

中での種目数を見たら、子どもたちの反応がKEY POINTになります。

毎日の練習で、決められた時間の中で、その成果を求められます。

子どもたち、一人ひとりの育ちが求められるのです。  
年齢に応じて、本番のアイスブリークでは、一人ひとりが存分にその育ちを見せてくれますので、ご期待下さい。

どちらか、ひとひとりの種目での活やくいせ、期待してください。



(心の育ちシリーズ)

## つながっていく「いのち」と「心」

月刊誌  
ニューモラルドット

過去を生きた親祖先是、今を生きる私たちに対して、どのようなものを残してくれたのか。改めて考えてみると、それは建物としての「家」のように、必ずしも「形のあるもの」ばかりではないかも知れません。  
一つには「いのち」というものが挙げられます。私たちは皆父親と母親から「いのち」を与えられて、この世に生まれてきました。

しかし「生んでおいたら、それで済ませよう」ということではありません。誕生後とある程度の期間、家族をはじめとする周囲の大人たちの養育を受けなければ、生きていきません。養育とは、単に「食べものを与えられて保護され、体の成長を支えてもらう」だけではありません。私たちは周囲の大人たちからしつけや教育を受け、言葉や生活習慣、物事の善悪など、社会に順応していく為の基本的な能力を身につけてきました。

つまり、私たちが今、こうして生活できるのは、父母や家族をはじめとする大勢の大人たちから「どうか、この子が社会の中でしっかりと生きていけるように」という温かい「心」を注がれてきた結果といえるのです。

そして、私たちが「このように育ててくれた「いのち」と「心」のつながりは、はるか昔から大勢の祖先や先人たちによって、絶えることなく伝えられてきたものなのです。

親から子へ、子から孫へと、遠い昔から伝えられてきた「いのち」と「心」のつながりがあって、自分は今を生きている—この事実は、私たち一人ひとりが「かけがえのない存在」であることを教えてくれています。

そして親祖先が今日まで「いのち」と「心」をつないできてくれたように、私たちがまた、次の世代へとつないでいく使命を持つ存在なのです。